平成 28 年 度

八代市議会議会運営委員会記録

審 査 ・ 調 査 案 件

- 1. 議長の諮問に関する事項 2
 - 1. その他 29
-

平成 29 年 2 月 2 日 (木曜日)

議会運営委員会会議録

平成29年2月2日 木曜日

午前10時01分開議

午後 0時00分閉議（実時間117分）

○本日の会議に付した案件

1. 議長の諮問に関する事項

(1) 議会改革について

1. その他

○本日の会議に出席した者

委員長 野崎伸也君

副委員長 松永純一君

委員 亀田英雄君

委員 中山諭扶哉君

委員 古嶋津義君

委員 前垣信三君

委員 増田一喜君

委員 村上光則君

委員 村川清則君

委員 山本幸廣君

（議長代理）

副議長 百田隆君

※欠席委員 成松由紀夫君

○委員外議員出席者中発言の許可を得た者

君

○説明員等委員（議）員外出席者

議会事務局次長 嶋田和博君

○記録担当書記 嶋田和博君

梅野展文君

（午前10時01分 開会）

○委員長（野崎伸也君） それではですね、た

だいまから議会運営委員会を開会したいというふうに思いますけれども、まず、成松委員がですね、きょう欠席というふうな御連絡をいただきました。

きのうからですね、何回もちょっと連絡いただいとったんですけど、なかなか私が出る機会がなくて、朝から、ちょっとお電話してつながりましたんで、そういった御欠席のですね、連絡ということでございました。

一応ですね、いろいろ議会運営委員会とか、ほかのいろんな常任委員会の中でも、欠席の理由というのは必ず問われますので、その理由についてという話を、成松委員にしたんですけども、なかなか歯切れの悪い感じで、以前から、何かいろいろ予定が入とったというような話をですね、されまして、公的なものか、あるいはプライベートなものかという話もしたんですけど、なかなかそこについてはですね、答えられないというか、私になかなか言われない部分がありましたんで、その押し問答をずっとやってたんですけど、なかなか、そういう歯切れの悪いような感じでしたんで、一応わかりましたと、来れないということであればしようがないでしょうということで、皆さん方にもですね、そういうふうに説明をさせていただきますと。議会事務局のほうにも何回も、以前から用事が入っているというような話はしてたというようなことですけども、事務局のほうでは何か聞いてますか、内容については。

○書記（梅野展文君） 内容について、特に確認はしていません。

○委員長（野崎伸也君） してない。わかりました。

済みません、申しわけないんですけど、自民党会派のほうでは、何か成松委員さんの欠席の件については、何か聞いておられますか。理由についてというのは、何も聞いておられないですか。（「別に」「前から何だかあってるけ

ど」と呼ぶ者あり) そういったことでしたんで、以前からですね、欠席の理由については、きちっとしたものをというふうな話で、いろいろと委員会の中でもですね、あっておりまして、皆さん方も、今後ですね、そういったきちっとした理由を述べてですね、欠席の場合はしていただきたい。議会運営委員会、あと常任委員会ですね、欠席した場合の代理を出せないものですから、そこのところはきちっとお含みおきをいただきたいというふうに思います。よろしいですか。(「はい」と呼ぶ者あり)

◎議長の諮問に関する事項

○委員長(野崎伸也君) それでは、レジュメに移ります。

議題の1番目、議長の諮問に関する事項の

(1) 議会改革についてであります。前回の会議において、請願者・陳情者の意見陳述機会を設けることについてを最優先に協議し、残り6項目の優先順位を御決定いただきました。

審査の進め方としては、1つの項目の協議が行き詰まった場合は、時間の許す限り次に優先する項目に移っていくといった方法を確認していただいております。

そこで、まず、請願者・陳情者の意見陳述機会を設けることについて御協議願いたいと思っておりますけれども、委員長案に対する各委員の意見なども考慮しながら、前回いろいろといただきましたので、改めて整理いたしました委員長案を、事前に郵送にて送付させていただいております。

つきましては、この請願者・陳情者の意見陳述機会を設けることの是非を含めて御意見をお聞かせいただきたいというふうに思います。

○委員(松永純一君) 前回よりは要点をまとめて、うまくできているなと思っておりますが、2つほど確認をさせていただきたいと思っております。

まず、3のですね、意見陳述の手續というところですけども、この中に、付託審査前に開かれる委員会において、その可否を決定するというのがあるんですが、最近のですね、議会の開催の状況を見てみますと、開会の後に、翌週に一般質問があって、その翌週に特別委員会、各常任委員会が開かれるような流れになってますよね。ですから、請願・陳情を出されて、そして、一般質問の最終日に各常任委員会に、特別委員会に付託されますよね。そうすると、付託審査前に開かれる委員会において可否を決定するというになると、この委員会は、付託された後に、最初の委員会を開いて、可否を決めて、また会期中にもう一回委員会を開くようになるかなど、あるいは、例えば、一般質問の間に委員会を開くかというふうになりますけれども、そのあたり時系列的にはどうかなというふうに思うのが1点と、もう一つは、その後にあります、参考人として出席を要請するとありますけれども、この申し合わせ事項で、委員会がするというのがですね、委員会条例というのがありますよね。この中に、参考人の招致があるわけですが、これは、たしか議長を経てするとかですね、あるいは議長は参考人に対して、日時とか場所とか決定して通知するとかとありますけれども、その委員会条例、あるいは会議規則にも同じように書いてあるんですけども、そのあたりは、私は、恐らく委員会条例が優先すると思うんですけども、この申し合わせ事項に、もし入れるとすれば、参考人の出席については、委員会条例によるとか、そういったほうがいいんじゃないかと、その2点について、ちょっと確認をしたかったんですが。

○委員長(野崎伸也君) 私のほうから、ちょっとお話ししますが、まず、1点目の付託審査前に開かれる委員会においてというくだりですよ、可否を決定するということがありますけれども、手續のフロー的には、流れ的に

はですね、請願者が意見陳述の申し出があったというようなことであれば、一般質問最終日に請願・陳情をですね、付託する委員会を決定するわけなんですけれども、そこでですね、同時に付託委員会を、一般質問の最終日にさせていただくと。何で開くのかというのは、そういった付託された委員会に出された請願・陳情者が、その委員会で、私はしたいんだというようなことがありましたんで、じゃあ、委員会でそれをいいとするのか、悪いとするのかというのを諮って、まずもらうというような流れになります。

もちろん、その次の参考人に出席を要請するというのは、やはり法、ありますよね、地方自治法とか、そういった流れの中で書いてありますんで、それに、もちろん、そちらのほうが優先されるというふうに思います。

言われたように、議長からというのはありますんで、そのくぐりは、ちょっと割愛しているだけというようなことですので、もし、入れたほうがいいということであれば、それを入れるべきかなと、今思いましたけれども。

○委員（松永純一君） じゃあ、付託審査前に開く委員会において要否を決定するということは、それで了解しました。

参考人に出席を要請するというふうに、これに書いておくんですね、この申し合わせ事項が優先するような受け取りもできるわけですよ。ですから、ここは、やっぱり委員会条例によるとかですね、そういうふうにしたほうが、やっぱり条例ですから、そっちのほうを優先するような記述の仕方がいいんじゃないかと思うんです。そこはちょっと検討してもらえばと思います。

以上です。

○委員長（野崎伸也君） 今言われました、参考人として出席を要請するというようなくぐりのところなんですけれども、委員会条例にとい

うふうなところをですね、入れたほうがいいんじゃないかというようなことですので、例えばですが、今、松永副委員長、どぎゃんふうな形で、文言は変えます。

○委員（松永純一君） 委員会条例のですね、中に、参考人というのがあるんですよ。委員会が参考人の出席を求めるには、議長を経なければならないとかですね、あと、議長は参考人に日時、場所及び意見を聞こうとする案件その他必要な事項を通知しなければならないというような条例、決まりがあるわけですね。ですから、それを優先するということですので、この参考人の出席については、八代市議会委員会条例によるとかってしとけば、そっちのほうを優先することになりやせんかなと思いますね。

事務局はどんなですか、そのあたりは。

○委員長（野崎伸也君） どうですかね、事務局。（発言する者あり）準ずるとか、そういった感じでよかですかね。

○委員（松永純一君） そのほうがいいと思いますけど、運用上はですね。

○委員長（野崎伸也君） 今、済みません、松永委員からありまして、参考人のところのくぐりですけれども、2行目から、委員会が必要と認めた場合、参考人の出席については、八代市委員会条例に準ずる、というような文言でいきたいというふうに思います。ありがとうございました。

ほかに。

○委員（古嶋津義君） うちはきのう、ちょっとこのことも、その前も寄って協議をしましたが、根本的にですね、ここに出ておりますが、審査上そぐわないのではないかという見解でございます。これは、全国市議会議長会の見解等も、ちょっと調査しました結果、そのようになっているようでございます。そして、この意見陳述ですが、請願と陳情とは、ちょっと重みが違うんじゃないかという話もありました。

うちとしては、従来どおりでいいんじゃないかという、あくまでもそういう話でございました。

以上です。

○委員長（野崎伸也君） ほかに。

○委員（増田一喜君） うちもですね、今現在参考人制度があるし、それで十分賄えると、解決はできるんじゃないかなということ。これをされるのであれば、これはそのときの各委員長さんが、自分が参考人として呼んで、願意を聞きたいという判断をされる、個人的なやり方ちゅうか、方法として、これを自分で考えておられればいいんじゃないかなと思います。

参考人のほうでも、要するに、請願にしろ、陳情にしろ、その書面の中に願意を込めて書いておられるから、これをいちいち、私は言いたいと言えば、極端な話すれば、単なる陳情・請願の内容は、1、何々、2、何々で、箇条書きして、あとは言葉で言いますよというようなことも、これからいけば可能になるんじゃないかなというふうに思うんですね。あとは、じゃあ、その文章ば、言葉を聞いたときに、そのときにはわかったようであるけれども、何だったかというふうな形になるし、文字にあらわして、ちゃんと出てきておれば、それを見ながら、ああ、ここはこういうことか、で、理解ができないときに、参考人として呼んで、ここはどういう意味でこういうことを書かれてるんですかとか、それは聞けるんだし、そういう制度はちゃんとあるんだから、あえてこれを申し合わせ事項みたいにする必要もないんじゃないかなという、これはあくまでも委員長が参考人の人を呼びたい、そのときの一つの参考にされればいいことじゃないかなという意見もありました。

○委員長（野崎伸也君） 今言われたとおりだと思うんですよ。委員長がなられたときに、この間はそういう話もしたんですけれども、委員

長がかわっていくというのがありますんで、今まで、こういったことでつくってないもんですから、今までやっていること、当たり前やってきたことを、ちゃんと文字として残していきましょうねというのを、今回提案させていただいているんですよということでしたんで、もちろんこれは、いろんなところでですね、委員長さんが見ていただいて、活用するために、今やっているという話ですんで、そういうふうに御理解いただければと思います。

○委員（前垣信三君） 私も、これ、お送りいただいてから、中身を確認をしてみたんですが、今、松永副委員長がおっしゃったみたいに、ここの付託審査前に開かれる委員会というところに引っかかりがありました。

今、委員長の説明では、一般質問最終日の議運になるんですかね、議会運営委員会と議会が入るのかどうか別ですが、そこで要否を決定するということです。これはこれで構わんと思うんですけど、これはあくまでも申し合わせ事項ですから、委員会条例に定めた内容であれば、今でも参考人招致はできる、陳述の機会があるということであればですね、申し合わせ事項としてあるんなら、これでも構わんと思います。ですから、そこの委員会というところが、それぞれの委員会になるのか、議会運営委員会になるのかというところで、ちょっと引っかかりがありましたけど、決定するのは、ここでいうと、正確には開かれる議会運営委員会という捉え方でよろしいんですか。

○委員長（野崎伸也君） ここに書いてある付託委員会前に開かれる委員会において要否を決すると書いてありますが、まずは、一般質問最終日には、付託委員会を議会運営委員会で決めますよね。そこで、じゃあ、この請願・陳情は、例えば、文教福祉委員会ですと。そこで、その請願・陳情者がやりたいと、話をしたいんだと、聞いてくれというようなことで、それも

上がっているというのが、そこで、議会運営委員会の中でわかっていますから、じゃあ、そこで文教福祉委員会の委員会を開いてもらうと、もう一回。その中で、文教福祉委員会の中で、委員さんたちの中で、じゃあ、それをいいのか、悪いのか、するのか、しないのかというのを諮ってもらおうという意味で、ここには書いてあるとです。付託審査前に開かれる委員会というのは、付託された委員会のことをいいます。だけ、議会運営委員会じゃなくて、付託された委員会のこと。

○委員（前垣信三君） 基本的には、議会運営委員会に上がってきた内容を、改めて、また委員会を別に開いていただくという考え方でいいんですか。

○委員長（野崎伸也君） そうです、そうです。

○委員（前垣信三君） 事前に、御本人さんが意見陳述をしたいとおっしゃる場合はわかってくるから、間違いなく、その後、それぞれの委員会を開かれるということですね。

○委員長（野崎伸也君） はい、開いてもらうということになります。

○委員（前垣信三君） 逆に、委員会のほうから、もうちょっと詳しく聞きたいという、そういうのは、どこで決定をするんですか。

○委員長（野崎伸也君） それは、聞きたいというのは、委員会からの要請ということになりますんで、それは委員会が開かれるじゃないですか、付託された委員会を開く、一般質問の次の週に開かれて、その中で、そういった意見がまとまるとなると、その後ですよ、ただし会期中になりますけれども。委員会審査が、まず終わって、その日はできないですから、その日に事務局から、こういった請願・陳情者に対して意見がありますと、出席してから話をしてくださいというような要請があったんですけど、一応日にちとか、そういったもの

を調整して、会期中に、また委員会を開くということになります。

以前も、1回あったんですけども、したんですけれども、それもそういった流れでしたんで、そこは同じだと思います。

○委員（前垣信三君） はい、わかりました。

○委員長（野崎伸也君） ほかに。

○委員（村川清則君） さっき、今までなかったからつくるんだというような話でしたけれども、これをつくるのと、つくらないのでは、随分陳情者の考え方が変わってくると思うとですよ。意見陳述できるんだとか、そういう、今までは、ほら、要請があれば参考人として意見陳述できる。でも、これからは最初から意見陳述できるんだということですね、請願書、陳情書とか、趣旨とかの欄自体が、何か意味がなくなるんじゃないかというようなこともあります。趣旨をあれに書いてあるんですから、別に。これをやったとして、意見陳述に来られる。ちょっと状況がわからんから、担当課を呼んで説明を聞く。同じ席でやるわけですよ。ちょっと何か微妙になりやせんですか。

○委員長（野崎伸也君） 微妙というと。

○委員（村川清則君） 担当課が、それに対してちょっと否定的なあれをやった場合、考えであった場合、そういうことを考えたら、やっぱり現行どおりでいくのが一番かなと、私は思っております。

○委員長（野崎伸也君） 今、自民党さん会派のほうからですね、現行どおりがいいんじゃないかというような、多分、まとまった同じような意見だったと思いますけど、それについて、どう思われます。何かありますか。

○委員（亀田英雄君） 今の話を聞いて思ったんですが、意見を述べる機会を得るという、それは自由ですけど、これを通したい人は、やっぱり書面もきちんとつくってくるだろうし、思いのある人はここで意見を言わせてくれと、それ

に重ねてという意味ですから、その指針づくりを、基準づくりをつくるという話ですから、全然これは、請願者、陳情者のための整備だろうというふうに理解するんですよね。それは全然やぶさかじゃないし、むしろ積極的にこのようなことをするべきじゃないかというふうに考えるんですが、いかがでしょうかね。

○委員（古嶋津義君） 議会事務局のほうにちょっとお尋ねしますが、持ってこられたとき、意見陳述するか、せんかは、お尋ねになつてでしょう、たしか事務局のほうで。

○委員長（野崎伸也君） そのとおりです。

○委員（古嶋津義君） しないならしないでいい。

○委員長（野崎伸也君） そうです。それはもう自由なんです。

○委員（古嶋津義君） あえて出席を要請までせんでよかつちやなかか。

○委員長（野崎伸也君） いや、要請はする可能性はある、委員会です。

○委員（古嶋津義君） 従来も、この前、橋本議長のときだったかな、やったこともあったけん、あのままでいいんじゃないかなあと思う。うちはそういう見識でありました。

○委員（山本幸廣君） 目的というのが一番だと思うんですよね。目的を、まず理解をしていたただかなければ、参考人、参考人の中で、はっきり言って、そういう一つの流れというのは、参考人の制度というのは、常にあるわけですので、それを活用するか、活用しないか、委員の方々が参考人を呼ぼうか、それとも陳述書の中で、請願・陳情者というのが、これだけは絶対言うとかないかと、はっきり言って文面だけではだめなんですと、だから、陳述をお願いしたいという、そういうことをしたほうが、開かれた市民のためにいいんじゃないかという、そういう目的で今回は提案しとるわけですから、何も深く考える必要はなかですよ。何も

ないと思います。

○委員長（野崎伸也君） 議会改革というのが、全国市議会議長会でかなりですね、進めていただくようなというようなことで、いろんな活発なですね、議会改革の内容とか、そういった全国のですね、自治体の市議会の、町議会のやつが、毎月紙面をいただくわけなんですけども、ところにも載ってくるというようなことがありまして、よくよく読むとですね、やはり、書いてあるのは、市民に開かれた議会を目指すために、この議会改革をやるんだというようなことをですね、よくその文面の中にもうたわわているというのがありますんで、私も、この案をつくらせていただいたときに、目的として、市民に開かれた議会というのをですね、一番念頭に置いて、そういった機会をですね、やはり今までなかったもんですから、それこそ市民の皆さんに開かれた議会というのを目指すのであれば、こういったですね、場を設けるということは、非常にいいことじゃないかということで、またよそのですね、地方議会でもやられるところがたくさんあるということでしたんで、八代市議会でも、これをガチガチにですね、条例とか、そういった中に持っていこうなんて気はさらさらないんですよ。そういった市民の皆さんにですね、こういった八代市議会は議会改革としてこういうことをですね、やることにしましたと、市民の皆さんの意見を聞く機会をですね、少しでも設けたんですということですね、皆さん方には御理解をさせていただいて、委員長として提案させていただいておりますので、できればですね、御理解をいただければなというふうに思ってます。

○委員（山本幸廣君） 委員のメンバーというのは、各常任委員会の委員長、副委員長を経験されてきておられる方ばかりでありますので、まさに委員会が必要と認めたときなんですよ、参考人というのは、委員会のみんが参考人を

ひとつ要請しようかというときには、はっきり言ってから、全員の中で決めてですね、それなら参考人を呼ぼうと。いや、それは、この件で何も呼ぶ必要ないですよといったら、そこのすみ分けというのは、もうわかるわけですから、請願の内容等によってですよ。そこらあたりについては、私は、何も支障もないし、やはり委員会で必要と認めたならば、参考人を要請すると、ただそれだけのことですけんでから、何もここで、あれじゃないですか、自民党の方々がどういうふうに理解をされているのかわかりませんけども。

古嶋委員が言われたように、法的な問題かれこれという中身についてはですね、まだ、私も勉強してないんですけども、ただ、これは法とか何かじゃなくしてから、関係ないような気がしますけども、そこらあたりは事務局、何も無いと思うばってんが。

○委員長（野崎伸也君） 案としてつくらせていただいたときに、やはり、よそでやられているところはたくさんありますよという話をしました。

そこですね、やられて問題がないからこそ、こうやって、今も続いていると、やられているというのがありますんで、法的にというのはですね、特段問題ない。参考人の制度のところをですね、活用してやるというようなことで、どこの自治体でもやっておられますんで、私的にはないというふうに思いますけど、事務局から何か補足がありますか。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 済みません、座って説明させていただきます。

今回の申し合わせ事項の法的な部分についてのお尋ねだったと思いますけども、今回の請願・陳情書の意見陳述を、請願・陳情人みずからが希望した場合に、参考人制度を弾力的に運用することによってですね、手続上は参考人制度に基づき出席を要請するというような形をとっ

ております。

ただ、手続上は参考人の制度を経てはいるものですね、本来請願人・陳情人の意見を述べるといような、委員会等で意見を述べるといのは、法律上の保障はどこにもございません。

他の自治体を見ますと、そういったことから議会基本条例などを制定してですね、市民の積極的な参加を促すというよう規定などを設けて、それを根拠にですね、参考人制度を弾力的に運用して、請願人・陳情人の意見陳述の機会を設けるというふうなのをとっているところがほとんどでございます。

本市の場合は、今回議会基本条例については、まだ議論のさなかでありますので、申し合わせによって、参考人制度の弾力運用を行いながら、市民の参画の機会の道を開こうというよう委員長の趣旨だというふうに理解をしております。

○委員（前垣信三君） 今までの話の中で、ずっと聞きながら思ったんですが、私は、この3番の中の一番大事なのは、委員会において、その要否を決定するということは、御本人さんが意見陳述したいとおっしゃっても、委員会で、もうこれは聞かんでよかばいと、だめという、今までそういう要否ができるという項目がなかったような気がするんですよ。ここが一番大事かなと思うんです。

だから、請願者・陳情者が出すときに、私は意見陳述をしたいという意思を出されても、そのこの委員会で、これは聞く必要はないという否決もできるかどうか、そのあたりの確認をしたいんですが。この文章でいくと、要否を決定するとありますから、いや、これは聞かんでいいとか、いや、聞きましようといのは、委員会で決定ができるという捉え方でよろしいんでしょうか。

○委員長（野崎伸也君） そのとおりです。

○委員（前垣信三君） それでいいんですね。

○委員長（野崎伸也君） 先ほど山本委員も言われたんですけど、委員会であくまでも、私、当初出しとった案では、それは入れてなかったんですけど、皆さんのいろんな意見がありましたんで、そこは入れさせていただいたかどうか、修正はちょっと、済みません、私の思いでは、余りそこは入れなくなかったんですけども、本当は来らした人に対しては、全部話をしてほしいという思いだったんですけども、そこは申しわけない、自分の中ではちょっと不本意なんですけど、委員会が最終的に判断できるというふうに、そこは変えさせていただきまして、言ってこられても、委員会が、いや、ここは聞かんでいいよ、もう十分理解しているんだというようなことであれば、それはもう要らないと、判断であれば、お断りするという話になりますんで。

○委員（古嶋津義君） 先ほど、松永委員からもちょうとありましたように、下の段ですね、委員会が必要と認めた場合、委員会条例との整合性もあると思いますし、また、先ほど市民に開かれたという話がありましたが、陳情書等についてはですね、市民じゃなくて、ほかのところからも来るものもありますので、その辺のところですね、少し私どもは不安視をしております。そして、その目的のところを書いてある、弾力的に運用することと、これが、弾力的な乱用につながりゃせんとか、そういう危惧もしております。

○委員長（野崎伸也君） もう一回よかですか、弾力的じゃなくて。

○委員（古嶋津義君） 弾力的でなくて、乱力というか、乱れた取り方になりゃせんのかなと危惧をしております。

○委員長（野崎伸也君） あと、今、古嶋委員が一番最初のほうで言われた、どこだったかな。

○委員（古嶋津義君） 委員会が必要と認めた

場合、それはもう、先ほど松永委員が言われた、委員会条例と整合をちょっととらんばいかんとじゃなからうかと。それと、陳情書なんかも、熊本とかよそから来る、その辺が、「あれは、どっか除いてあったばい」と呼ぶ者あり)

○委員長（野崎伸也君） 除いたです。そこも、前のやつには載せとったですけど、除いたですよ。できないようにちゅうかですね、乱発で来られないようにというところで、私が一番最初つくった案では、それが抜け道としてできるようなあれだったんですけど、できないようにちゅうということで、ちょっと修正はかけたというふうに思ってます。

○委員（古嶋津義君） ただ、請願書（陳情書）と書いてある。これは前んとか。

○委員（松永純一君） 1の最後のところだったと思うんですけど、今古嶋委員が言わすとは。決議・意見書の提出を求めるものは対象外とすると、これに当てはまりゃせんかなと。

○委員長（野崎伸也君） そこがですね、私が一番最初の案ば提案しとったときには、それがですね、何もなかったですけども、今言われた、乱発ばですね、防ぐためにもということで、最後のくんだり、ただしというところで入れさせていただいたというようなことでございませう。

中山委員、まだ御意見が出てないですけど、どぎゃんふうに思っておられますか。

○委員（中山諭扶哉君） 例えばといいますか、今回の議会運営委員会以降ですね、また、次の議会の後もですね、もしも、不都合があればですね、変えることは、申し合わせ事項ですから、できるというふうに、私は思いますので、やるのもですね、非常に前進するんじゃないかなというふうに思いますし、不都合があればですね、また皆さんで話し合っ、これははいかんよねというようところが出てくれば、ま

たそれで修正すればいいんじゃないかなというふうに思いますけど、はい、個人的な意見です。

○委員長（野崎伸也君） はい、わかりました。

○委員（村上光則君） さっき亀田委員からもありましたように、私は、請願・陳情が、これまでよりもですね、より請願者にとっていいことになるんじゃないかなあというふうに、私は聞いておりましたが、委員長案のとおりで、私は何も、これでいいんじゃないかなというふうに思います。

先ほども、松永副委員長からも、そういう、また補足的なつけ加えもありましたから、それでいいんじゃないかなと、私は思います。

○委員（亀田英雄君） 意見が出んだったようですね、手ば挙げたっですが、これは議会の姿勢だと思うとですよ。門戸を開いておりますね、どうぞおいでくださいと、ただそがしこん話だと思うとですよ。条例でも何でもなし、申し合わせですね、どうぞ、ありますね、その取り扱いでよかと思うとですよ。どうぞ、意見があられる方はおいでくださいという話ですね、これは何も、こがしこしてから、閉ざすちゅうほうがおかしかなというふうに考えます。

○委員（古嶋津義君） 先ほど申しあげましたように、松永委員が申されたようにですね、委員会条例との整合性を、もう一回、この辺のところを整理をしていただきたい。

それと、先ほど冒頭に申しあげました、全国議長会の見解では、審査上そぐわないという見解のようでありましたので、この辺のところも、ひとつ整理をしていただきたいと思いません。

○委員長（野崎伸也君） 先ほどの参考人出席の要請をするというくだりのところですね、松永委員のところというのは、先ほど、そこにつ

いては文言を修正しました。委員会が必要と認めた場合の出席については、八代市委員会条例に準ずるというふうなくだりに変更させていただきますということでは、そこで問題ないですか。確認をしたいというようなことですけれども、事務局にも。

○委員（古嶋津義君） うちも、持ち帰ってから、皆さんにお話しせんばですね、ちょっとわかりませんので。

○委員長（野崎伸也君） 古嶋委員、済みません、きょうは持ち帰れません、もう。

もう何回もですね、これ大分前から、私、流してますんで、そういった中で、この件に関しては、何回もここで持ち帰り、持ち帰りやっていますんで、きょうはここで決めさせていただきたいというふうに思いますんで、持ち帰りはできませんので、持ち帰らないかわりに、ここで議論をしてください。

○委員（古嶋津義君） うちとしては、冒頭に申しあげましたように、従来どおりでいいという見解です。

以上です。

○委員長（野崎伸也君） じゃあ、もう少し詳しくですね、その従来どおりでいいというような理由づけを、もう少しお話しをいただきたいと思うんですけども。増田委員、よろしいですか。

○委員（増田一喜君） 請願とかは、署名議員さんがおられますよね。署名議員さんが、その請願者の人たちの話を聞いて、署名されてると思うんですよ。中身を知らずして、ただただサインしましたというのをおかしいんじゃないかな。だから、請願者の人たちの願意というのは、そこでわざわざ本人さんと呼ばなくても、紹介議員さんがちゃんと理解してされているから、その人が御説明いただければ、それで済むことだろうし、陳情書については、今は、八代市は結構請願書と陳情書と、同等な取り扱いを

しているみたいですけどですね。だから、今度は陳情者の人が陳述をしたいと言えば、それは各委員長がお話を聞いて、ああ、このことは、やっぱり出席してお話をしてもらわなまずいなと、みんなにわかるようにしたい、やらないけんなど、委員長が判断されたら、お諮りして、そして、ここで出る要否を決定されれば、必要なことであって、わざわざ申し合わせ事項までする必要はないと思います。参考人のその制度で利用してやっていけばいいことであって、あえてこれをする必要はないし、そのときの委員長さんになった人が、委員長さんになった人で、参考人制度を理解しながら、ちゃんと自分で委員会の運営はされていくでしょうから、これをこんなやってするんだと、がっかりしてしまうと、その人の判断とか、そういうのも入る余地がなくなってきやせんかな、余りにも文言で締めつけてしまうと、その人の特色というのなくなってきやせんかなと。だから、現実的には意見陳述をしたいという人が出てきたときに、そういう話があれば、委員長さんが行って、お聞きになって、それをみんなの前に、こういうことですよ、だから、これをどうしましょうか、意見陳述を聞きましょうかという要否を、ここで判断されればいいわけでしょう。わざわざ、ほかのところまで、こうやって申し合わせというかた苦しいあれはする必要はないと。委員長さん判断でいいと思いますよ、もし陳述をされるんだったら。

○委員長（野崎伸也君） それをここに書いてあるわけなんですよ。

○委員（増田一喜君） だから、それは、各人でいいわけですよ、委員長になられた人が。

○委員長（野崎伸也君） だけん、何回も言うんですけど、委員長がかわっていくというところの中で、それぞれに、ばらばらにですね、なってもらっちゃ困るんけんが、ある程度の申し合わせで、八代市議会としてはこういっ

た流れでやるんですというのを決めとかんと、委員長に判断させてしまったらですね、それぞれですね、委員長の個人差が出るものですから、ばらばらになっちゃいかんと。これは、それを指針としていただくという話なんですよ。委員長がこれを見て、ああ、こういうふうな申し合わせがあるねと。そうなる、あらかたですね、ばらつきちゅうのはなくなってくるわけなんですよ。委員会は、この間はごきやんふうにしよらしたばってん、今度はごきやんのごたっていう、そういった市民の人から思われちゃ、やっぱり議会としてはいかんと、私は思いますので、あらかたこれは指針というようなもので、委員長はこれを見てから、ああ、こういうふうにするんだねというのを進めていただくための申し合わせ事項ということで捉えていただきたいという。

○委員（前垣信三君） 済みません、事務局に確認ですが、現行の規則なり、条例でいくと、こういった意見陳述をしたいという場合の要否は、どこで決定ができたんですか。いや、これは断りましょう、いや、聞きましょうというのは、何か条例とか規則にうたってありますか。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 参考人制度というのはですね、委員会が必要と認めたときですので、請願者や陳情者が意見を述べたいという希望をですね、届ける手だては、今までございました。

ただ、議員さん方などのつてによってですね、ぜひ発言させてもらえないかというようなことで、これまでの運用としては、休憩をとって、その小会なり休憩をとったその場で、非公式の場ですね、請願人、陳情人がお入りいただいて、意見陳述を述べられるというのが通例でございました。

最近の参考人制度としては、庁舎建設絡みで、陳情人が複数名、参考人として、これは委員会が必要と認めてですね、参考人として出席

要請したという例はございます。

○委員（前垣信三君） 今の説明でいくと、委員会のほうから要請をして、御本人さんが納得をしていただければ呼ぶことができる。ただ、提案者のほうから説明をしたいというのに対しては、何も決まりがないわけですね。別に休憩して云々とおっしゃったから。

ただ、これをつくっとけば、その委員会で要否が決定ができるわけですね。ここが一步前進かなと思うとですよ。今までは、陳情者・請願者が何か意見を述べたいと言っても、何も門戸がなかったんですけど、これでいくと、一応門戸は開いて、なおかつ委員会でどうするかは決定ができるということだから、一つの申し合わせとしてはあったほうが、後は、運営が楽かなと思います。これがあるから、請願者・陳情者を締めつけるとか、そういう意図は全然感じませんので、このまんまで通されても、何も問題は、私はないと思います。

○委員長（野崎伸也君） ほかにございますか。

○委員（亀田英雄君） 文言で締めつけるという表現があったのですが、そんなことはどこにも見当たらないもんですから、どこの部分かなと。それば変えればよかですけん、どの部分が文言で締めつけとつかなというのを、ちょっとお聞きしたかったんですよ。

○委員長（野崎伸也君） 増田委員、どこの部分になりますか。

○委員（増田一喜君） 要するに、私が言いたいのは、参考人制度があるんだから、それで十分じゃないかということなんです。あえてする必要はないんじゃないかと。

○委員（亀田英雄君） いや、そういう話じゃなくて、文言で締めつけるって話やったけん、どのあたりかなというところをお聞きしたい。

○委員長（野崎伸也君） 増田委員、具体的に締めつける部分というのは、どこに当たるの

か、あるいは全体的にという話なのか、そこについて、ちょっと御意見いただきたいんですけど。今言われたように、そこが引っかかるのであれば、そこを修正していこうというような御意見だということでしたので。

○委員（増田一喜君） だから、参考人制度があるわけでしょう。その中に、ちゃんと委員長判断材料となるものはあるし、あえてこれを出す、二重に出す必要はないということ。二重になれば、申されてないのも、絶対これせよというような雰囲気になると思うんですよ。参考人制度で、こういうふうに沿ってやりなさいちゅうことは、もう既にできているんだから、あえて二重にこれをする必要はないと。だから、それは、その参考人制度を、委員長になられた人が、ちゃんと事務局と打ち合わせしながら、これはこういうふうにやったほうがいいんだなちゅうことでやっていければいいし、だから、これは委員長がつけられたのは、次の委員長になられた人に、こういうふうな考え方でやられたほうが、やりやすいですよくらいの話でいいんじゃないかなと思います。

○委員長（野崎伸也君） 増田委員、今、一番最後に言いなつた、それです。これぐらいでやったらどうですかということなんですけれども、その文言ですけど。よろしいですか、それで。

○委員（増田一喜君） 野崎委員長がそう思われたら、野崎委員長が、次の委員長さんにこうやったほうがいいですよちゅう話でいいんじゃないですか。

○委員長（野崎伸也君） それを、私が個人的に、（委員山本幸廣君「委員長、よかですか」と呼ぶ）ちょっと待ってくださいね。今亀田委員が質問から振ったもんですから、よろしいですか、今。では、山本委員。

○委員（山本幸廣君） 増田委員、そのような考えで、何期も議員してこられたんですけど

も、私も、委員長の案とか何かで、私たちがこういうことをしたらどうですかという意見を、議論をしたんですよ。その中で、委員長がある程度まとめて、副委員長もこの文言についてはこういう修正案でしたらどうですかという、ほとんど各委員の方々の意見を集約したのが、この一つの手続、目的から、手続からですね、意見陳述の方法等についても、前回やりましたけれども、やはり申し合わせは詳細になればですね、大変な問題、今まであってきとるんですよ。陳述をしたときに、委員長が、委員が求めるですね。そうしたら、事務局は電話をしてから、おらっさん、おらっさん、おる。こういうふうな方やけども、やっぱり休憩をとったりですね、物すごく時間もかかるしですね、そういう中では、こういう申し合わせしとけば、すぐですね、対応ができるわけですよ。そういう中で申し合わせしましょうということだけから、目的からずっといいんじゃないですか。意見の陳述の方法の、5分以内とするとかですね、陳述の時間とか、そういうのはみんなで検討した中で、委員長がまとめてきたわけですから、10分でも20分しましょうということになれば混乱するから5分ということ、みんなで決めたんじゃないですか。ぜひとも、委員長案っていうけんでから、みょうなか。我々の、これははっきり言って、意見の中で集約をしてきたわけですから、しとらんと、この前意見ば言えばよかわけたい、この前の意見のときに、委員会のときに、どんどん意見言うて、そして議論してからいかにとしゃがな。

○委員（中山諭扶哉君） ちょっと確認なんですけど、今、これまでの委員会の経過の中で、意見陳述を求められる場で、非公式だということがありましたけど、この申し合わせが行われた場合は、一応公式の場でそれができるということでよろしいんですか。

○委員長（野崎伸也君） そのとおりです。

○委員（中山諭扶哉君） ですよ。ということであればですね、非常に陳情者にしてもですね、うれしいことじゃないかなというふうに思いますし、いいことじゃないかなと、そういうのが皆さんの前で発表ができるというのはですね、というふうに思いました。

○委員（古嶋津義君） 今まで委員会に配付のみの陳情があったと、そこまで意見陳述をしたということになれば、膨大な量にならせんのかなと。

○委員長（野崎伸也君） 古嶋委員、そこなんですけど、先ほども言いました、1番目の目的のところ、一応それはですね、歯どめをかけとつとですよ。一番最後のただしというところで、そのくだりです。もう少し足らんとあれば、もう少し文言ば足したほうがよかというのであれば。

○委員（古嶋津義君） 委員会で可否を決定するというのは、多数決ということになるのか、その辺のところ、私たちは危惧すつとです。

○委員長（野崎伸也君） そこば変えましょうか、もう少し詳しく。乱発のやつがいかにぞと、その意味でここに、ただし書きをしたつとすけれども、そこでちょっと、もう少しそれを防ぐような。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 今論議になっております部分についての、まず、いわゆるばらまき陳情、こういった部分についてはですね、1の目的のただし書きのところ、決議・意見書の提出を求めるものは対象外とするということで、一般的にばらまき陳情というのは、全国的に出される要望でございまして、ほとんどが意見書提出ということで、こちらについては認めないということです。

それと、3番目に、意見陳述の手続とありますが、ここの冒頭に、意見陳述は、委員会に付託された請願書等を対象とするということですから、委員会に参考送付されるものについては

対象外となります。

○委員長（野崎伸也君） 古嶋委員、この2つで、一応歯どめをかけているということですので、よろしいですかね、御理解は。

○委員（古嶋津義君） 次長、今のところ、どこだった。

○委員長（野崎伸也君） 一番最初の目的のところの一番最後、ただしからのところですね。ただしというところ。

○委員（古嶋津義君） 決議・意見書だろう。

○委員長（野崎伸也君） その次は、3番目、意見書の手続のところ、委員会に付託された請願書等を対象としというところで、2つ、2段で歯どめをかけているというようなところ。す。「参考送付に關しても」と呼ぶ者あり

○委員（山本幸廣君） それは対象外。付託されたもんたい。「これ1つつくっとくと楽だ」「委員長がですね」「迷わんでいいけん」「委員長が楽ですたい」と呼ぶ者あり

○委員長（野崎伸也君） もう意見はありませんか。

古嶋委員、よろしいですかね。ほかに何か修正箇所とか、ここは気になるよという、気になる場所があれば。

○委員（古嶋津義君） 修正箇所じゃなくて、私どもは、あくまでも審査上そぐわないからということで、今までどおりということで。

○委員長（野崎伸也君） いろいろ、今のところで不備な部分についてもですね、古嶋委員からも御指摘いただきまして、御理解いただいたかなというふうに思います。

もうそろそろ、やがてですね、きょう始まってから、もう1時間ぐらいたつぐらい議論もしていただきましたんで、これまでも何回もですね、これをやってきたという経緯がありますんで、そろそろ皆さん方の最終的な御意見をお伺いしたいと思いますけれども、どうでしょう、私が今聞いた感じでは、これをそのまま申し合

わせ事項として置いておくべきだろうということで、そっちのほうが多いかと思いますが。

○委員（古嶋津義君） もう1点よかですか。費用弁償の話ですが、これは請願者みずからがしたのは支給しない。こっちから要請したときは支給するちゅうことですか。

○委員長（野崎伸也君） ここにですね、先ほど言いました条例の中ですかね、参考人のところのくだりのところで。

○委員（古嶋津義君） 下のほうを適用するちゅうことで。

○委員長（野崎伸也君） そこがありますんで、呼んだ場合には支払いはしなきゃいけないというのがあります。そういったあれがありますんで、決まりが。ただ、みずからですね、というのが、今度の趣旨になってますんで、そちらについては支給しないでいこうというようなことを提案させていただいているというところ。す。

ほかにございますか。よろしいですか、古嶋委員。

○委員（古嶋津義君） 1点聞くばってん、この前、休憩時間に参考人意見陳述した場合、あれは、つまり出とらんわけ。

○委員長（野崎伸也君） 出してあります。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 休憩中にですね、請願人や陳情人が発言をされるケースが、過去にございましたが、これは参考人制度を使っておりませんので、費用弁償は一切支給してありません。

ただし、庁舎建設のときに出席をいただきました参考人については、規定どおりの日当を支払っております。

○委員長（野崎伸也君） 古嶋委員、よろしいですか。

○委員（山本幸廣君） 2000円か3000円ぐらいたつろう。

○委員長（野崎伸也君） 2200円。

そろそろですね、ということでございますけれども、今、いろいろと議論いただきまして、これまでも何回もいただきましたけれども、あらかた修正も大分固まってきて、皆さん方の落ちつくようなところまでできたのかなということと、あわせて、そのまま、このままどおりですね、今修正かけたやつで、申し合わせ事項として決定していくべきだろうというような意見が、私的な感じでは多かったんですけども、そのような形で進めさせていただいてもよろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(野崎伸也君) では、もう一回確認いたします。

八代市議会における請願・陳情者の意見陳述についての申し合わせ事項については、協議が整ったということで、ただいま協議いたしましたとおりの決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(野崎伸也君) 異議なしと認め、そのように決しました。(「異議あり」と呼ぶ者あり)

それではですね、続いての項目ということになります。

レジュメのほうを見ていただきますと、②番目ということで、政務活動費の用途基準等ということでございます。こちらについては、前回ですね、会派室、――。

○委員(増田一喜君) 議運の協議なんちゅうのは、これは多数決ばっかしでいくんかな。前から全会一致ちゅうのをやってたんじゃないの。どうなのかな。

○委員長(野崎伸也君) 増田委員、委員長からよかですか。多数決もあったというふうに思いますけれども。

○委員(増田一喜君) いや、あったでしょうけど、ずっと、大体全会一致でやってきたでしょう。異議ありで、ありきで進めてきているん

じゃないの。我々最終、これば必要ないんじゃないかと、参考人制度があるから必要ないんじゃないかちゅうということでずっとしとる。例えば、そう言われるから、文言については、ここはというふうな話をしていただけで、基本的にはこれは必要ないということですよ。

○委員長(野崎伸也君) いや、必要ありが多かったもんですから、そういうに決させていただいたということです、委員長判断として。よろしいですか。

○委員(亀田英雄君) 不毛な話はやめましようよ。必要なら、委員長に申し合わせば、そこばやればよかっただけんという話もされたじやなかですか。それは必要ちゅう話ですもん。

○委員(増田一喜君) いやいや、それはあなた以外の、個別に、個人的に話されたらいかがですかちゅう。

○委員(亀田英雄君) 委員長の許可を得ないで、話をまぜくらんどつてくれんですか。そればしとつただけん。

○委員(古嶋津義君) うちの、審査上そぐわないという意見ですので、反対ということですよ。

○委員(亀田英雄君) 委員長、多数決ばしつかりとんなっせえよ。今までもとつとるとだけん。

○委員長(野崎伸也君) とらなくても、今もう、決したんですので、それでいいと思うんですけれども。あえてとりますか、じゃあ。

(「とりましょう、とりましょう」「よかじやなか、とらんで」と呼ぶ者あり) 私はとらんほうがよかかなと思いますけど。(「申し合わせだけんな」と呼ぶ者あり)

○委員(前垣信三君) 逆に、これ、ある意味では市民にとって開かれとるんですよ。今までも、市民が意見を申し述べたいちゅうても、その機会がなかったのに、申し述べてよかですよという、一歩進んどるわけだけん、これをし

たけんって、旧来の条例かれこれに何も問題があるわけでも何でんなか。条例はそのまま生きとるし。逆に、市民に開かれたのに、市民に開くと言われるのがおかしいと思います。

（「そのとおり」「そのとおりですよ」と呼ぶ者あり）

○委員長（野崎伸也君） 一応、私は委員長で、先ほどの件については決しましたので、特段何も言うことはないんですけれども、あえて、決をとれというのであればとりますが。

（発言する者あり）

○議会事務局次長（嶋田和博君） 表決に当たって異議が出た場合は、起立なり採決をとらざるを得ません。

○委員長（野崎伸也君） わかりました。じゃあ、とります。

じゃあ、もう一回戻しますね。

先ほどの八代市議会における請願・陳情者の意見陳述についての申し合わせ事項について、賛成の方の挙手を求めます。

（賛成者挙手）

○委員長（野崎伸也君） 賛成多数ということで、この件については決定していくということに決しました。（発言する者あり）

これでよろしいですか。皆さん大丈夫ですか。

では、次に進めさせていただきます。

レジュメのですね、②政務活動費の用途基準についてということで、前回ですね、今、地震によって鏡支所の議会棟の中に会派室を設けられないというような状況になってますと。そういう中で、今、政務活動費を使ってですね、別の場所に事務所、会派室をですね、借りられているところがあると。それについて、事務局サイドとしての考えもですね、聞きましたし、じゃあ、ということで、案をですね、出していたということがありました。

4点出していた、山本委員から4案目

ということで出していただいて、事務局から3案出されましたけれども、それについてですね、2案、貸し事務所賃借料の補填ということと、鏡支所内に設置しますよということ、この2案がありましたけれども、じゃあ、鏡支所内にですね、これを、会派室をつくった場合どうなるんだと、どういったレイアウトになるかとか、どういうふうな形ですね、いけるかということで、少し事務局のほうにですね、案をつくっていただきましたんで、そちらのほう、まずは説明をですね、皆さんと聞きたいというふうに思います。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 今委員長からありましたように、会派の控室については、2案に絞られまして、鏡支所内に会派控室を設置する案と、現在の貸し事務所の賃借料を補填する案と、2案に絞られたところです。

それで、お手元に横長で、鏡支所庁舎3階配置図というのがあると思います。1ページ目が現況とありますが、まずは、鏡支所内に設置する案というところから説明をさせていただきたいと思います。

基本的な考えといたしましては、交渉団体である3人以上の会派、こちらが7会派ございます。これまでのように、自民3会派を1グループとしました場合に、5つのグループ、それに少数会派を共有の部屋を御使用いただくと想定した場合に、最低でも6つの部屋が必要となっております。そういう基本的な考え方で、案を考えてみました。

1ページ目は現況です。小会議室と和室と、今2部屋しか、議員控室として御提供できておりません。

次のページをお開きいただきますと、まず、第1案といたしまして、情報政策課の移転の案でございます。現在情報政策課は北側の執務室、およそ4部屋を専有しております。情報政策課が移転しますと、情報政策課の2係とマシ

ン室、電算書ということで、4部屋があいてくることとなります。多少使い勝手が悪い部屋になっておりますが、事務局の執務室と入れかえる等によって、何とか6部屋は確保できるということになります。この費用に関しましては、まず情報政策課の移転先を確保すること、それと、移転にかかる費用として、震災時に本庁からこちらに移転した際に、さまざまな経費、総額で約1000万円程度要しております。

次のページが、第2案ということで、こちらは、事務局の移転案でございます。現在全協室で使っております大会議室、こちらは3分の1と3分の2程度の広さに分割できる扉がございます。これでもって、事務局を大会議室の一角に移転することによって、現在事務局で使用しております4つの部屋、こちらがあいてまいります。これで、従来の2部屋と合わせて6部屋の確保が可能となります。この際にかかる費用については、基本的に職員で行いますので、費用はほとんど発生しないというふうに考えております。

次のページが、第3案としまして、2階に和室の2間続きの部屋がございます。こちらのほうを洋式に改修し、仕切りを入れます。現在和室、3階でございます、こちらも様式に改修をして、間に仕切りを入れて2部屋といたします。そして、議会事務局の議事調査係が入っているところ、こちらを控室とし、その議事調査係は、総務係と、その隣の給湯室、旧執務室でございますが、こちらの壁を取り払ってですね、2係押し込むというようなことで、そういった改修をすることによって、6部屋を確保しようという案でございます。かかる経費は約500万円と積算しております。

最後に、貸し事務所の現在の賃借料の補填案ということでございますが、これは現在、改革クラブさんを中心としたグループで借りておら

れる賃料、それに未来さんたちが借りていらっしゃる所の賃料、それに自民3会派が、今後事務所費として計上するとしたときの予定金額等を勘案して、月額、3グループで16万5000円、これが年間12カ月、そして、新庁舎の完成までの新年度からの向こう4年間で計算をしますと、約800万円程度の賃借料が必要になってくるということになります。これについては、少数会派のほうでも、そういった補填をするということになると、新たに貸し事務所を借りられるというようなことも考えられますので、プラスアルファというふうにお考えをいただきたいと思っております。

一応、事務局からは以上のような案で御説明をさせていただきました。

○委員長（野崎伸也君） ありがとうございます。事務局のほうでですね、移転とか、いろいろですね、事務局の移転だったり、情報政策課の移転だったり、あるいはというようなことで、いろいろとですね、案をつくっていただいたという、大変ありがとうございました。

詳細にですね、金額の見積りのほうも、多分とられてから、いろいろと言われているという部分もありましたので、それをもとにですね、皆さんと、じゃあ、どういうふうな形でやっていきますかというところを、今から議論していきたいというふうに思います。

今の説明について、御質問等あれば、まずはいきましょう。

○委員（古嶋津義君） まず、第1案ですけれども、情報政策課の移転先とですね、そして、電算室の移転はぴしゃっと可能か、その辺をちょっと心配しますが。

それとですね、第2案にはなかですが、第3案、確かに2階のですね、和室、これは昔職員の休憩室だったと思いますが、そこはあつとはあつとですばってん、今、そこは何も使うとらんとかな。

○委員長（野崎伸也君） 2つでよろしいですか。

○議会事務局次長（嶋田和博君） まずは、情報政策課の移転につきましては、移転にかかる費用だけ確認をとっただけでですね、移転先とか、そういったのは全くまだ協議に入っておりません。

それと、2階の和室についてはですね、現在会議室等で利用がされているということです。

○委員長（野崎伸也君） よろしいですか。

○委員（古嶋津義君） 2階ちゅうか、庁議室じゃなかです。向こうのほうは、和室の2部屋何かあったろうが、あそこのことば言いよります。あそこは会議に使いよつと。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 2間続きの和室につきましては、会議等で利用しております。

○委員（古嶋津義君） 会議する場所がなからんといかんのかな。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 現在ですね、仮設庁舎ができて、事務局で管理しております大会議室の利用頻度も若干下がってはきております。しかしながら、会議室は絶対的には不足している状況にはございます。

○委員（古嶋津義君） 例えば、鏡のまちづくり協議会等で会議するときですね、向こうもこっちも足らんもんだけん、農協のそこばお借りしてから会議しよるときもあるんですよ。実際的には会議室足らんとじゃなかかなという認識はあります。

ただ、今言われた、2階の和室とですね、この隣か、和室と昔資料室だったとか、その辺はちょっと利用できるのかなと思うばってん。確認ですが、これは3人以上の会派に割り振るということですか。

○委員長（野崎伸也君） 基本的に3人以上の会派で、先ほど自民党さんは1グループというふうにまとめさせてくださいという説明があり

まして、じゃあ、6部屋ですよ、ひとり会派とかは1つのところに入ってもらうという話で、6部屋準備すればいいだろうということで、今言われたうよに、3人以上の会派のところは主流になってくると、1部屋ずつやっていくという話ですよ。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 補足をいたしますけど、これまでの会派室のですね、使用基準ということで、申し合わせが、既に先例としてできておりまして、これについては、交渉団体、現在3人以上の会派を指すわけですが、そちらと、あわせてですね、政党を名乗る、1人あるいは2人の会派についてもですね、個別に供与するというふうになっております。ですから、今後少数会派については、1部屋で共有ということになると、この辺の申し合わせも、若干見直す必要が出てくると思われます。

○委員（古嶋津義君） 今の申し合わせからいけば、共産党さんは1人でも、党だけ、そればつくらんばんということだな。

○委員長（野崎伸也君） 私も確認しますが、絶対的に与えんばいかなという、今の条例でいけば。条例ちゅうか、先例という話ですか。

○議会事務局次長（嶋田和博君） あくまで先例です。申し合わせでございますので、議員の皆さん方の総意でもって、変更も可能であります。

○委員長（野崎伸也君） ほかに質疑。

○委員（山本幸廣君） 委員長、特に事務局にはありがとうございました。

私のほうから提案したものですから、私の、今、この資料と説明の中で、資料等見ますとですね、鏡支所庁舎の3階の配置の第2案、委員の方々も目を通していただいたと思うんですけども、大会議室の議会事務局ということで、今黒塗りをしてあるんですけども、ここならば、移転の費用も要らないし、この案でいったら、

私は一番いいんじゃないかなと思う。事務局が本当に苦労してつくっていただいたんですけども、ほかの案については、いろいろと、今古嶋委員からも、確認をする事項もあるし、また、問題も少しずつあるような気がしますので、よろしければ、第2案ですね、ここでですね、これからひとつ、委員長、お諮りいただいて、決定すれば、それなりにひとつ、詳細にですね、検討していただくようお願いをいたしたいと思います。

○委員長（野崎伸也君） 今、第2案でというような意見がございました。

質疑、ほかにあります。

○委員（中山諭扶哉君） 一番最後のページの16万5000円という金額なんですけど、前回ちょっと、それぞれ一覧表をつくるようなイメージがあったので、よければ、現状の使われている人数と、その金額ぐらい、ちょっと口頭でも教えていただければと思います。

○委員長（野崎伸也君） わかりました。

ちょっと待ってください。小会します。

（午前11時09分 小会）

（午前11時11分 本会）

○委員長（野崎伸也君） 本会に戻します。

今、資料のほうをですね、中山委員から言われた部分について、事務局のほうでまとめていただいとった分がありますので、ちょっと説明のほう、よろしいですか。

○議会事務局次長（嶋田和博君） まず、お配りしました資料についてですが、上のほうに書いてあるのはですね、改革クラブさんと連合市民クラブさんと日本共産党さんの3会派で共同で借りておられるところで、現在本町2丁目の商店街振興組合の2階におられますが、こちらについてですね、月額3万6000円。それに、下段が、月々の電気代、そして、次の段が電話代というようなことで記載をしてござい

す。

次が、無所属未来さん、政友会さん、維新さんの3会派で借りておられるところの事務所費がごらんとおりとなっております。

最後に、自民党さんのほうは、党の事務所がございしますが、会派控室がないということで、現在その一角を会派控室としてですね、実質利用されておりますが、現在事務所費として、今後計上したいというようなことで、その際想定される金額として、こちらに記載の金額を想定しておられるということで、これらを基礎に、先ほど積算した金額が出てきたところでございます。

○委員長（野崎伸也君） 中山委員、よろしいですか。

○委員（中山諭扶哉君） ありがとうございます。

○委員長（野崎伸也君） ほかに質疑ございますか、質問等。

○委員（松永純一君） 質問じゃないですけども、この前、うちの山本代表が提案されるときに言われたように、やっぱり議場とかですね、会派控室というのは、同じ建物の同じフロアにあるのが、やっぱり一番使い勝手がいいのかなという意味では、先ほど言われたように、第2案がですね、経費が要らないで会派室を設けるようなというのが、適当じゃないかと、私もそういうふうに思いました。

○委員（亀田英雄君） 議会事務局、さっきの話は、左のほうに、大会議室のほうに移転すると。これの平米数は書いてないんですが、機能するのか、大会議室は大会議室で機能するのかという点について伺いたいと思います。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 議会事務局が一角を利用するという案でございしますが、この議会事務局が専有する面積は約60平米となります。残りが90平米ということで、これまで大会議室として利用しておりました会議室

は、中規模の中会議室程度の利用になろうかと思われま

す。現在仮設の庁舎ができて、会議室もそちらのほうに設けてございますので、利用頻度はかなり少なくなってきました。

また、これまでと同程度の広さを必要とする会議をする際には、お隣の文化センターにも大会議室等がございまして、そちらの利用頻度等も既に調査をいたしました結果、支障はないだろうというふうに考えております。

○委員（亀田英雄君） わかりました。

6部屋を用意すればよいという話だったかというふうに思うとります。

多分、2案しかなかったらと思うのですが、ということじゃべつとつとつですが、2案の、ちょっと色の濃い部分を会派室に宛てがいたいという話なんだろうけど、それぞれですね、今までの松江城の庁舎の控室と、どの程度違うのかなど。あんまり変わらんぐらいの面積が、1人頭確保さるつとかなというふうに思うんですが、その辺の見解はありますか。なければよかですが。

○委員長（野崎伸也君） 議員1人当たり何平米とかという、何かくだりがあったですよ。何平米か、私忘れたんですけど、そこら辺、答えられますか。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 第2案でいきますと、議会事務局総務係とあります。こちらは、そもそも正副議長室ということでしたので、現在情報政策課の隣に議長室というのを設けておりますが、この案になった場合は、こちらの議長室と控室の入れかえ等も考えなきゃいけないかなとか、そういうことも考えてはおりますが、いずれにしても、1人当たりの平米数となりますと、何分、どの部屋も大体同じような広さで、局長室とそのお隣を除いてですね、大体25から30平米というようなことで、自民党さんの3会派を除きますと、1人当

りの面積はかなり大きくなるんじゃないかなろうかと思えます。

○委員（亀田英雄君） 仮定の話なんですけど、多分、34平米のところが一番広かけん、自民党さんの3会派さんが入るのかとしたときに、10人で狭くはないかなという感じもせんでもなかというのと、議長室がそっちにいくと、議長、これはもう4年間これですつとですけん、議長応接室というのは必要なですかね。その辺の見解を伺いたい。

○議会事務局次長（嶋田和博君） ごらんになられた方もいらっしゃると思うんですが、現在議長室を設けておりますが、そこには議長と副議長の執務の机、椅子、そして、少したくさんのソファを置いてですね、議長応接室としても使えるようにしております。

本来ですと、正副議長室と議長応接室ということで、2部屋設けることができれば、それにこしたことはないとは思っております。

○委員長（野崎伸也君） よろしいですか。

○委員（亀田英雄君） 自民党さんが入ったときに、狭いと感じらんかなあというとは。それはもう、主観の問題だけん、何とも言えんばつてん。

○委員長（野崎伸也君） 前の松江城のところは結構広かったよね。あれは何平米かな。

○委員（山本幸廣君） 今、一つの案が出てですね、この案で方向づけをしていただければ、詳細については、これを執行するのが、施行するのが、改選がことしありますのでですね、その改選後にするのか、その前にするのかという状況で、ひとつその検討をしていただければ、また、その次にですね、詳細に、会派からの理解というのを得られないかと思っておりますので、よろしければ、委員長のほうで進行する中でですね、そこまで考えていただければなと思えますが。

と同時にですね、先ほど来の自民党さんも、

はっきり言って、29年度から計上予定ということを考えておられますし、ここらについても、会派室ができたから、事務所というのは持つてはいけないと、そういうのではないわけですので、これはずっと生きていくと思うんですよ。ですから、私が当初申し上げたのは、やはり議会棟があって、事務局があって、直接その時間で、やっぱりいろんな資料の取り方とか、そういう関係があるから、会派室は、やっぱり議場内のところに会派室はつくったほうがいいんじゃないかという、そういう目的で、私が提案させていただきまして、その中で、今第2案ということで方向づけしていただければ、あとについての、平米数については、詳細に後からですね、会派条件があると思えますから、1人会派については、絶対これは、前の申し合わせがあります。今事務局が言ったように、3人であろうが、4人であろうが、1つの部屋を、1人平米数で4人おっただくという、机とかパソコンとか何かあるもんですから、やっぱり1人当たりの平米数というのは、おのずとしてやらないかんだろうというふうに思っておりますので、そういう申し合わせをしておいたと思えますからですね、そこあたりの検討して、次回に検討していただければと思えます。

○委員（亀田英雄君） 今、山本代表の話のとおりで、方向性はよかと思えます。といいますか、この事務所ば探すときに、鏡にはでけんただけんというところが前提で聞いたんもんですけん、なん、でくつとかという、私は面食らってから、ちょっと、今の事務所も、今期末までの契約で、たしかしとるんもんですけん、ちょっと面食らったもんですけん、詳細について話をしたんですが、その辺も含めて、皆さんで協議いただけるのであれば、そこはもう、それでよかろうというふうに考えます。

○委員（村上光則君） やっぱし、これからも

検討すべきことが非常にあるかなというふうに思いますので、改選後にちゃんとしたあれを検討してですね、改選後にもんだらどうかというふうに思います。

○委員（村川清則君） ちょっと確認です。今まで全員協議会やるときは、この仕切った部分の下だけでやりよった、全部使いよったでしょう。となれば、全員協議会、窮屈かな。

○議会事務局次長（嶋田和博君） もし、事務局が大会議室の一角を使った場合はですね、全協は議場でというふうに想定しております。

○委員長（野崎伸也君） 全協を議場でですね。

○委員（古嶋津義君） 仮に、先ほど亀田委員からちょっとありましたが、一人一人の平米数とか、ここはでけんよね、前のごつ、狭もうなしたり、広なしたりちゅうとは。これ以上、そのままちゅうことだらうけん。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 必ず改修費用が伴います、かなり金額のですね。

○委員（山本幸廣君） 私の、ここの建築担当と話したところが、簡単に、これはおっぼがられるて、あんまり改修費要らな言うたばい。全部、鉄骨は吹き抜けげなもん。ただ壁ばしてあるばってん、鉄骨の柱が2本あってな、あとは全部すぐ払わるって、とかるって、それは聞いたってんが、俺は聞いたけん。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 山本委員おっしゃるとおりですね、構造上は何ら問題ないということですので、場所によってはですね、比較的容易に改修は可能だとは聞いております。

○委員（古嶋津義君） 唐突な話ですばってん、前の真ん中、このスペースがあって。（「屋根かければよかつたい」と呼ぶ者あり）（笑声あり）

○委員長（野崎伸也君） ほかにありますか。なければ、ちょっとまとめたいと思うんです

けれども。

○委員（中山諭扶哉君） 済みません、ちょっとちっちゃいことだったんですが、この16万5000円の中には、要は電気代とか通信費とかは入っているんで、実際はそこが、こっちに来たときに、その分はかかりますよということですよ、会派ごとにはですね。この比較する中で。よかです、細かいことです。

○委員（古嶋津義君） 先ほど、山本代表のほうからちょっとありましたが、選挙も終わってからちゅう話だったですけど、それくらいになつとかなど、個人的な見解です。

○委員長（野崎伸也君） じゃあ、まとめさせていただいてもよろしいですか。

とりあえずですね、案を出していただきました。まずはですね、この間取りとか、そういうのがありますけれども、いろいろとですね、こういった不測の事態の中で、ここに狭い中でも用意しようという話でしたんで、今までの平米数とかというのもですね、危惧する部分、心配する部分はあつとですけども、我慢していただくと。何よりもですね、多分、この2案を、いいじゃないのというふうに言われたのは、移転費用がかかってない部分について、やはり皆さん方、議員として、やはり御迷惑を市民の皆さんにかけちゃならんという思いで、2案というような話をされたかと思えますんで、なるべく改修費用をかけないということを前提するということであれば、私は、やっぱりこの2案を中心にいければというふうに思うんですけども、ほかにも、これも検討したほうがよかつじゃというのであれば、今ちょっと聞きますけれども、一緒に。

○委員（増田一喜君） 私も、考え方としては2案がいいのかなと思った。ただ、ここには、一切触らない、ただ移転するだけで、費用がゼロとおっしゃられたけれども、言われたように、人数が多いところ、少ないところになって

くると、ちょっと広さによって、これを少し、1室でも壁をするというようなやったら、どれぐらいかかるのかな。今はわからないでしょうけど。それも、もしするんだったら、少しずらせるんだったら、少しはずらせる部分ちゅうのは。

○委員長（野崎伸也君） どぎゃんでしょう。今ちょっとお願いしたとが、なるべく金をかからんようにやりませんか、今ちょっと御提案を、私の中ではしたつもりやったですけど、どぎゃんでしょう、そこは我慢できんということであれば、そぎゃんふうにせないかんですし、今、こういう事態なんで、我慢していっちょくかということであれば、この2案のとおりでよかですけども、そこら辺はどぎゃんでしょう、増田委員。

○委員（増田一喜君） 少しでもね、できるだけかからないようにいいんですけども、せめて、どこかの壁一つば、少しずらして、少し面積を確保していただければ。机なんか置いたら、本当に通るときに、本当に壁すりながらというような状況が出るんじゃないかなと思つて。

○委員長（野崎伸也君） わかりました。それは、とりあえず持ち帰って、きょうはもらおうかと、これは思うんですよ。だけん、その中で、それも。

○委員（増田一喜君） 状況を、どうしても壁をずらさないという状況であれば、ずらしてほしい。それでも我慢して入れと言われれば、皆さんがね。（発言する者あり）

○委員長（野崎伸也君） わかりました。事務局、例えばですよ、壁をちょこっとずらしたぐらいのところの金額が幾らぐらいかかるよというのを、増田委員に、後から、検討材料としてお伝えしていただければと思うんですけども、そこは大丈夫ですか。見積りじゃなくて、ちょっとしたことを確認していただいて、金額

的なところは、増田委員にお伝えするという
ことでよろしいですか。

○委員（増田一喜君） この状態で、先ほども
想定ということで、亀田委員が言われたけど
ね、総務係のほうになると、34平米ですか
ね。ほかの4人とか、そこらの人たちは、ほか
のところに行けば、結構広いところになりま
すよね。10人から比べると余裕があり過ぎる。
だから、そういうところで、少しできないか
という、その思いがあったもんだから。委員長
が言われたように、出れば、それでいいの
かなと。

○委員長（野崎伸也君） わかりました。

ちょっとまとめますね。きょうはちょっと、
御提案させていただいたのが、きょうのき
ょうですので、やっぱり持ち帰っていただ
こうというふうに思ってます。

まとめなんですけれども、一応第2案のほう
で、皆さん進めていっていただけるという
ことでよろしいですかね。それで、一応、
これ全部持っていってもらいますんで、
その中で、こういった意見が出たとか
という話はですね、もちろん当然よろ
しいかと思えますけれども、なるべく
お金のかからないということで、この
2案を中心にして下さいということで
検討して下さいということが一つあり
ます。

もう1点、いつからやりますかという
ことなんですけれども、今、改選後が
一番いいんじゃないのかという
ような話もですね、出ておりました
んで、いつからやるのか、じゃあ、
これをということですね。2つ目です。

あと、もう一つ大事なところがあり
ます。今、皆さんが、鏡の支所に
会派室を設けられないという
ような前提の中で、じゃあ、よ
そに会派室を設けて下さいとい
うことで借りられている部分
があります。今、こういうふう
に資料を出させていただいたん
ですけれども、こういった支
払い等がありますけれども、

こちらについてはどうするのかとい
うところでもですね、今政務活
動費で支払いをさせていただ
いているというのがあります
けれども、基本的にですね、
会派室をここに設けられない
という中で、でも、事務局と
しては、ちゃんとそこに設
けられるのであれば、それ
を負担すべきだという
ような見解もありました
ものですから、じゃあ、今
後も、もし、仮に改選の
ときまで、あと何カ月か
ありますけれども、その
間を事務局としてお支
払いをしていただくの
か、あるいは我々の
政務活動費から支出
していくのか、そう
いった話もですね、
ちょっと、持ち帰
ってからしていただ
きたいというふう
に思います。

以上3つ、よろしいですか。

何か質問等あれば、今伺いますけれども。

○委員（亀田英雄君） 委員長、復唱して
いただけませんか、3つの復唱を。

○委員長（野崎伸也君） まず1点目
ですけれども、きょういただいた
この配置図ですね、何案とい
うのがあります。これは持
って帰っていただいて、言
いましたとおり、方針的に
は、こういった不測の事
態ですので、お金をかけ
ないで、会派室ができる
ような形で話を進めたい
という方向性です。です
から、第2案を中心に、
会派では話し合いをし
て下さいと。今、増田
委員が言われた、もう
少し1人当たりの面積
が広い、狭いとか、
そういった部分があり
ますので、そういった
分も含めてですね、
意見等をお聞かせ
いただきたいという
ふうに思います。

2点目、じゃあ、いつから
やりますかということ
ですね。いつからとい
うところ。今、改選
後からがいいん
じゃないかとい
う御意見が多
かったという
ふうに思
います
けれども、
そう
い
った
ところ
も
会
派
で
話
し
合
い
を
し
て
く
だ
さ
い。

最後、今、それぞれに
会派でお借りしている
部分、会派室があり
ますけれども、その
部分については、
じゃあ、どう
する
のか
と。この鏡支

所に会派室をつくった場合、じゃあ、議会事務局からは支出はしないのか、あるいは自分たちの政務活動費の中から、今借りている部分については支出をしていくのかというような部分がありますよね。もちろん引っ越しとか、もしする場合については、その費用もかかります。そういった部分も含めてですね、じゃあ、どうしていくかということでもですね、検討していただきたいという、3つということになります。

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員（古嶋津義君） 1つ確認ですが、亀田委員、いつまでか、契約期間は。

○委員（亀田英雄君） 今年度ちゅうか、今任期って思うとったですよ。

○委員（古嶋津義君） 任期中借ってあつと。

○委員（亀田英雄君） そげん、書類ば見たわけじゃなかですが、そのような気持ちで話をしました。

○委員（古嶋津義君） 契約は8月ぐらいまでちゅう。（「契約はそがんなつとる」と呼ぶ者あり）

○委員長（野崎伸也君） よろしいですか。ほかにございますか。

増田委員、よかですか、質問等、よろしいですか。

それでは、今の政務活動費の使途基準の件については、それをお願いしたい、持ち帰っていただきたいというふうに思います。次回までということでございますので、よろしくお願ひします。

それではですね、続いて、まだ時間がありますので、続きます。

③番目、会議出席費用弁償の見直しということで、これ、連合市民クラブのほうからですね、提案させていただいておりますので、資料のほうをお配りしました。

連合市民クラブのほうで、こういった趣旨で、こういうふうに変えたいんですと、御検討

いただけないですかねということで、資料をつくらせていただいておりますので、こちらについて、ちょっと目を通していただきたいというふうに思います。

済みません、じゃあ、私が出しておりますので、私がちょっと資料についてお話しします。

費用弁償の見直しについては、前回のですね、前期の議会改革の中でもですね、話をさせていただいた経緯があります。

変更がありました。ということで、変更された部分については、表につけております。23年9月1日以降、現行ですよ、の部分については、このように前回から変更がなされましたということでございました。

ただですね、これについてもですね、まだ、今の時点では、いろんなよそのですね、地方議会を見てみますと、廃止になっている部分とかですね、実費支給というのが非常に多くなってきていると。いろいろですね、マスコミの報道でも、いろいろな報道があっているという部分がありまして、さらに議論をしていきたいということで、2案を提案させていただいております。

真ん中から下になりますけれども、まず1番目については、費用弁償、これは会議出席の際の日額の支給分ということになりますけれども、その廃止ということ、1案目に出させていただいております。

2案目ですけれども、こちら、実費支給ということにしております。1キロ当たり37円というような、これは八代市の条例のやつをそのまま適用しているという状況がありますので、議会のほうもそれに適用されてますので、その件で、実費支給ということ。

この2案をですね、連合市民クラブから提案させていただいているというところでございます。

こちらの件については以上です。

皆さんから何か質問があれば、お受けしたいというふうに思いますけれども。ございませんか。

○委員（亀田英雄君） 2案を、もし仮にですよ、採用した場合。

○委員長（野崎伸也君） 2案、実費支給の件ですね。

○委員（亀田英雄君） どのように変化が見られるのかな。

○委員長（野崎伸也君） 例えば、10キロ未満、計測するわけですよ、家からこの会議場所、ということは議会ですよ、この議会棟まで、鏡支所までということで、その実測に合わせて、車賃1キロメートル当たりを掛けると、その分を支給するという。例えば、10キロあれば370円支給しますよということでございます。（「掛ける2やろう」と呼ぶ者あり）あ、往復だけですね。そういうことです。

○委員（亀田英雄君） 日当と宿泊料というところについてはどうなるんですか。これは費用弁償に、前入ったかな。これも見直すという話かな。

○委員長（野崎伸也君） そこは何も、今のところはあります。

○委員（亀田英雄君） 表の中の話ですな。わかりました。

○委員長（野崎伸也君） これが第5条というところの関係につけられている表です。

○委員（亀田英雄君） 済みません、理解しました。

○委員長（野崎伸也君） ほかに。ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野崎伸也君） なければですね、これも、次の会議で、また話をしますので、議論したいと思いますので、これも持ち帰り事項ということでもあります。各会派で、これについ

て、私は2案を提案させていただいておりますけれども、どうしたほうがいいのか、どういふふうな思いがあるか、これも持ち帰って協議いただきたいというふうに思います。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

ちょっとまだ時間がありますので、もういっちょいきます。

済みません、④の管外行政視察の見直し、視察成果の反映ということで、こちら資料、改革クラブのほうからいただいておりますので、そちらについて、亀田委員のほうから少し説明のほうをお願いいたします。

○委員（亀田英雄君） もしかしら、ここまで来やせんとかと思うと、朝からちょっとばたばたしてつくってきたもんですけん、誤字脱字があるかもしれません。

意図するところは、視察は、やっぱりほかの自治体に行って、いいところを学んで、それを八代市に反映させようという意図があるはずだというふうに思っております。

今、復命書まできとつとですが、復命書を、今書いて終わりという段階じゃないかなと。もう一歩進んで、何かよかところのあったら、その行った成果というか、検証をする機会を設けたらいかがですかというのが、この提案の趣旨です。

これは主に委員会視察の話なんですけど、行く前に予習、帰ってきてから、後は委員長判断でよかと思うとですが、全体の中で会議をして、その検証をする。執行部に伝えたいことがあれば、執行部を呼んで話をするとか、そういう作業をしたらいかがですかという提案です。

○委員長（野崎伸也君） 主に、この視察成果の反映については、委員会視察についてということで、確認ですけど。

○委員（亀田英雄君） はい、そういうふうに。

○委員長（野崎伸也君） あと、委員会の視察

後に、担当部とか担当課とかと一緒に意見交換とか、議論する機会を設けたいという提案でよろしいですか。

○委員（亀田英雄君） 議論する機会を積極的に設けたらという話です。

○委員長（野崎伸也君） 議論する機会を積極的に設ける。

○委員（亀田英雄君） 視察の成果を、八代市に反映させなければいけないんじゃないかなと。多額の費用ばすつとですけん、という御提案です。

○委員長（野崎伸也君） わかりました。

済みません、ちょっと事務局、確認なんですけれども、申しわけない、よろしいですか。

今、委員会視察については、復命書を書きますよね、皆さん。それは見れますよね、どっかで。どっかで見れるようになってますよね。インターネットだけ。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 現在行政視察については、会派の視察等も含めてです、全てホームページでの確認はできます。

あと、これまでですね、震災前までは、情報プラザなどにも閲覧用で置いておりましたが、現在そういった情報プラザの場所がないというようなことです、事務局あたりでも、当然要請があればですね、閲覧は可能です。

○委員長（野崎伸也君） もう一回確認する。委員会のやつもホームページで見れる。私は、会派のやつは見たことあるとばってん、委員会のやつも見れるんですか、一人一人のやつが。見えます。（「見たことなか」と呼ぶ者あり）見たことないんで、今聞いたんですけれど。

○議会事務局次長（嶋田和博君） 済みません、勘違いしておりました。政務活動費の支出絡みで、会派の視察について公開しておりますが、委員会についてはですね、ホームページ等での掲載、まだやっておりません。

○委員長（野崎伸也君） それを何でしてない

の。今までの流れの中ではするあれはなかったということという理解でよろしいですか。

政務活動費については、やっぱ、せないかん、何かあるんですかね、どっかに、一文か何か。

○議会事務局次長（嶋田和博君） これまでの経緯はよくはわかりませんが、政務活動費については、特に社会の注目度が高いというようなところですね、そういったホームページ上での公開をやっておりましたが、委員会につきましてはですね、今のところ、まだホームページ上での公開はしていません。

○委員長（野崎伸也君） わかりました。

済みません、亀田委員、ちょっと確認なんですけど、今、この御提案については、委員会視察についてやりたいという話だったと思うんですよ。やってもらいたいというのがありましたんで、委員長として、今、ちょっと聞いたんですけれども、委員会の視察の復命書についても、今後はインターネットのホームページで公開していくというようなところも、ちょっと入れさせてもらえないかなというふうには思うんですけれど、いかがですか、だめですか。

○委員（亀田英雄君） 委員長が発言なければ、私がそう言おうかと思うとりました。

そう言いながら、私、見たことなかったっです、どこを探しても。だけ、その辺ば、ちょっと出してもらえばなという気持ちもあったもんですけん。

○委員長（野崎伸也君） じゃあ、よろしいですか、入れさせていただいても。

○委員（亀田英雄君） 過去にさかのぼって。決まればですよ。

○委員長（野崎伸也君） 前のやつがですね。はい、わかりました。

ということで、済みません、視察後、調査結果について議論する機会を設けるべきということが1点。そして、あわせて、委員会の復命書

についても、ホームページで公開していくということ。

先ほどの委員会の調査結果について、議論する機会を設けるといとは、基本的に委員長の判断になつとですかね、判断でやっという話ですか。

○委員（亀田英雄君） そこも、持ち帰って協議いただければと思います。原則的に、やっぱりやったほうがいいですよということ。

○委員長（野崎伸也君） 原則的にですね。

じゃあ、皆さんよろしいですか。これ、持ち帰り事項になりますが、視察後の成果を反映するために、執行部の担当課と、関係する課との議論する機会を設けるといことと、これまでの委員会の視察の復命書をホームページで公開するということ。あと、委員長判断、その開催ですよ、視察の成果を反映する場を開催するかどうかというのが、委員長判断でいいのか、あるいは委員会の中で、やっぱり判断をしていくべきなのかというところの3つでよろしいですか。もう1点。

○委員（亀田英雄君） もう1点というか、行く前に、今、委員長と副委員長がしっかりしよっちゃなかですか。やっぱり全員で行って、行く目的をはっきりしてせんば、向こうに失礼があったり、寝とったり、電話に出たりする風景がよく見られる。そげんことなかごて、という気持ちもあるもんですけん、事前の話、目的の周知とか、そういう活動もされたらいかかなと。

○委員長（野崎伸也君） 事前からということですね。

もう少し、じゃあ、申しわけないんですけど、次のときは、もう少し項目ば挙げてもらったほうがよかと思ひますんで、とりあえず、今言いましたことについて、会派で持ち帰ってください。議論してきてください。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員（古嶋津義君） 実は、うちも会派で、この前、25、26、27、視察したんですが、会派の視察資料についてはですね、僕は今、委員長じゃなかもんで、団長という立場だけん、全部個人個人の議員さんには、前もって、1週間くらい前にはお配りして、勉強しとってくれということで、それはしよります。

各常任委員会は、ただ、ある意味でその辺がちょっとだろうと思ひます。

○委員（亀田英雄君） その辺までちょっと、一歩を進めたらいかかなという気持ちです。

○委員長（野崎伸也君） 亀田委員、できれば、次の会議前までにですよ、ちょっと、つらつらとまとめていただいて、それをまた、皆さん方にも送るような感じにしましょうか。そして、それで議論してくださいということで、会派で話し合ってくれということよろしいですか。

○委員（亀田英雄君） 了解しました。

○委員長（野崎伸也君） よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、5番目、議会のICT化（タブレット導入など）ということでございます。これは連合市民クラブと改革クラブさんで出ささせていただきますので、一応ですね、私のほうから、連合市民クラブのほうでペーパーを出させていただきますので、こちらについて、ちょっと確認をしていただきたいというふうに思ひます。

上のほうはですね、後ほど読まれてください。

何をしたいのかということなんですけれども、3つあります。

1点目が情報発信の強化ということでございますので、今はですね、まず、前提にですね、議会運営委員会で鳥羽市の視察をしたというのがありまして、そこがすごい、私の中では記憶

に残っております。そこでもですね、いろいろと議会のですね、情報とかについては、ツイッターとかフェイスブックとかですね、そういったものを、今使ってやってますと、発信をしますよということがございましたので、ぜひ、八代市議会でもそういったことをですね、やれないかということで、1番目に書かせていただいております。

2番目なんですけれども、こちらは、いろんな、今情報伝達とかですね、会議の連絡だったり、いろんな迅速にやらなきゃいけない情報提供をですね、議員さんにやらなきゃいけないという部分については、今、ほとんど電話ですよ。電話あるいはファックスとか、そういう部分でやられているんですけれども、なかなかですね、迅速性に欠けるといふか、即効性に欠けるといふか、本当に災害時のときはですね、非常に困るといふような部分も、今まで経験してこられたかと思えますので、もう少しですね、簡単に、そして速く伝わるような連絡網の整備とかもですね、やりたいということでございます。それが2番目ということです。

3番目なんですけれども、いろんなメリットがあるんで、パソコンだったり、タブレットとかのですね、電子媒体を議会、議場とか委員会の中にも持ち込めるように検討できないですかということで、この3つをですね、御提案させていただきます。

以上になります。

何か。

○委員（中山諭扶哉君） 済みません、私も提案した1人として、ここまで行くと思ってなかったものですから。

これ、追加してですね、できれば、スケジュールの管理と、あと各種行事の出欠連絡もですね、そこでできるようになれば、事務局の負担軽減にすぐつながるんじゃないかなというふうに思いましたので。

○委員長（野崎伸也君） こちらについてもですね、きょうお持ち帰りいただいて、会派で検討いただきたいというふうに思います。よろしいですか。何か質問があれば、今お聞きします。

○委員（前垣信三君） これは、言い方が悪かですが、強制的に皆さん持つものなのか、持たれる人は持って議場に入っていという、そのあたりの解釈はどうですか。

○委員長（野崎伸也君） 提案した者からですね、このペーパーをつくりましたので、私の考えということでは、基本的にはですね、全員してもらいたいというふうに思います。じゃないと、いろんな連絡だったり、そういったものの負担の軽減とかというのにはつながらないものですから。

ただ、いきなりですね、が一んとここからやりますよ、もう、という話にはですね、やっぱりならんと思うとですよ。それぞれにやっぱ、なれ、ふなれとかあるもんですから、一応そこはですね、ちょっと緩くはですね、していきたいなと思うんです。

みんなができるような、みんなが持っているもので、情報連絡とか、そういうものはみんなが持っているもので、何かできればなというふうに思ってますので、難しくならないようにですね。

ただ、議会とか、委員会へのパソコンの持ち込みというのも、それは各個人なんです。やりたい人はやればいい。ただ、みんな全体でそれを認めようねというのを、何か皆さんでひとつつくってもらえんかなというようお願いで、今回提案させていただいております。みんなが一遍にせんばんと、私は思ってません。一緒に同じことばせんばんというとは思ってません。

○委員（前垣信三君） 済みません、それでよかったです。これ、個人負担で買いなさいということになってますよね。個人負担で議会専用

に買わないかんもんなのか、ほかの業務も兼ねて共用される場合は、変な話、ここで仕事ができるじゃないですか、変な話ですね。そのあたりの規制は大丈夫なのかなという気がします。

○委員長（野崎伸也君） そこら辺のところもですね、懸念される場所なんですけれども、そこはですね、多分今からの議論の中で、じゃあ、どういうふうに規制していくとか、基本的にですね、私は本当、負担を皆さんにかけたくないんで、みんなが今持っているものを使ってくれという話なんですよね。新しく購入してくれという思いは全然ありませんから。だけん、今言われたように、自分の個人所有だったら、中に何かできるものというのはありますんで、それも考えましたんで、そこは、今から皆さんと基準づくりというのをしなきゃいけないとは思っています。

○委員（中山諭扶哉君） できればですね、調査として、業者等ですね、どこか来ていただいて、デモが、どこかしてくれるところがあれば、していただくと、非常にイメージがつかめると思いますし、今現状のそこをさせてくれるところが持っている、今、議会の状況とかもですね、そういうシステムを開発しているところだったら、そういうのを持っていると思いますし、ぜひ調査として、していただければと思います。

○委員（山本幸廣君） まさに、今時代というのは国際化の中でですね、ICT化というのは大事だと思います。まずは、使い切る人、使い切らない人がおるわけですね。だからこそ、やはり、今、中山委員が言われたように、先ほど来委員長が言われた鳥羽市かな、何か進んでいるという状況でありますので、その関係の資料等を集めながら、それ以上に進めるには、やっぱり視察をして、現場で研修をしてくるとか、そういうのをですね、進めていけば、この連合市民クラブから提案された、この議会のICT

化というのは、全員が理解を得ると、そしてまた、本当に八代市議会が変わったな、八代市議会は、だけでも、これを使ってから、もしも何か起きたらいけないもんだからですね、そこあたりも、やっぱり慎重にやっていただければなと思います。採決関係は一番いいと思いますね。議案の採決は、今挙手で数えないかんとですけれども、数字が出てきますから、そういうのはいいと思います。

○委員（中山諭扶哉君） それと、新庁舎がですね、できますけど、それにスムーズに移行できるような体制が、ICT化がとれるような状況になると、非常にいいかなというふうに、タイミング的にはいいかなと思います。

○委員（山本幸廣君） 委員長、議事進行お願いします。

○委員長（野崎伸也君） わかりました。済みません。

鳥羽市の関係についてはですね、古嶋議長の時だったかな、ありますんで、もしかして、そのときの資料ば、ちょっと、「議運の」と呼ぶ者あり）議運で行ったですよ。ありますんで、こればちょっと皆さん方にもお配りしますんで、すぐできるかな。郵送、すぐできます、今。できない。印刷する。きょう持って帰ってください。

ということで、持ち帰り、いろいろと話をしていただければと思います。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それではですね、いろいろと、何点かですね、持ち帰り事項がありましたけれども、次回の委員会において、引き続き協議することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野崎伸也君） 御異議なしと認め、そのように決しました。

議会改革に関する協議はこの程度にとどめたいと思いますけども、御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(野崎伸也君) 御異議なしと認め、そのように決しました。

次に、次の開催日なんですけれども、協議したいと思います。

決まりではですね、毎月第1及び第3木曜日となっておりますけれども、そうなりますと、次は2月のですね、16日ということになります。

ただですね、例年というか、予定ではですね、2月の20日にですね、3月定例会告示日の議会運営委員会開催がですね、あります。16と20ということで、また別々に2回出てきてもらうというのがどうなのかなあというのがありましたんで、そこを皆さんに、ちょっとですね、協議いただければというふうに思うんですが、やっぱりせんばいかんというようなことであれば、2回開催しますけれども、もう、その20日の日に。

○委員(山本幸廣君) 20日の日に午前、午後、議運の終わった後に。

○委員長(野崎伸也君) というのもあります。

○委員(山本幸廣君) そういうことにしていただければと、委員長、思います。

○委員長(野崎伸也君) 今、そういった、20日の日の議運のときに、またしてもらえばというような意見が、今ありましたけれども。

16日に、それだけの議運をするのか、20日の定例会前の議会運営委員会の終わった後に、また、議会改革のやつをやるかと、どっちがいいですかと、今、なんですけれども。

(「20日でよか」と呼ぶ者あり) どぎゃんでしょう、20日でよろしいですか。

○委員(亀田英雄君) 20日でお願いできればと思います。

○委員長(野崎伸也君) では、皆さん、20日でよろしいですか。1回でということ、2回開かんでということ。

○委員(古嶋津義君) 午前、午後ちゅうこつな。

○委員長(野崎伸也君) いやいや、もう一遍にいきます。(「終了次第ということですが」「もう1時間もかからんて」と呼ぶ者あり) 短かですよ。

○委員(古嶋津義君) あっちは議会の日程決めればよかたい。

一応、きょうんとば持ち帰りすつとでしょう。

○委員長(野崎伸也君) こっちのほうが長くなるけんですね、どぎゃんしたっちゃ。

それではですね、次回の議会運営委員会の開催日は、協議いただきましたとおり、2月の20日月曜日午前10時から行います。よろしいですか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(野崎伸也君) 御異議なしと認め、そのように決しました。

先ほどから何点もお持ち帰りのことがですね、協議項目がありましたけれども、次回の会議までに意見を集約していただいて、ここでですね、発言、議論をいただくようお願いを申し上げます。

◎その他

○委員長(野崎伸也君) 次に、レジュメのほうでは、2番目、その他となっておりますけれども、何かございますか。

○委員(亀田英雄君) 冒頭委員長のほうが、出欠の話ばされて、委員会の出席の話をされて、含みのある話で、それで承知おかれたいというようなことで終わられたんですが、このことも、やっぱりしっかり、そのような話をせんでよかごて、きちんと届けるというようなことの取り決めといたしますか、しっかり話ばしたがよかつちやなかろうかと、だけん、この議題に上げてというとも考えたらいかがかなというふ

うに考えますもんですから、手を挙げてみました。

○委員長（野崎伸也君） 今、議会改革の議題の中でも入れたほうがいいんじゃないかということですよ。今、こういう話ば、申し合わせじゃなかばってん、そぎゃんともちゃんと決めとったほうがよかつじゃないかというような、私は受け取ったんですけど、それでよろしいですか。

○委員（亀田英雄君） せんばなからんば、大体うそですもん。

○委員（古嶋津義君） 冒頭の話は、しっかり本人、私もきのうは会うたばってん、何も言わんだっけん、聞いとりませんので、しっかり聞いてみます。

○委員（亀田英雄君） それがよくと思います。要らんあればせんば、いろいろ思わんばんけんですから。

○委員（山本幸廣君） 正式にということじゃありませんけども、今までの流れ、経験からいってですよ、欠席の理由というのは、私は求めていると思います。文書でもよかし、電話でも、委員長には報告する、事務局には報告する。理由だけはですね。理由が、あくまでも理由がわからんとしゃがな、こういうような形になるわけですから、理由は、病気なら病気でいいですよ。（「ばってん、うそ言うたらいかん」と呼ぶ者あり）それはそぎゃんたい。だけど、朝起きたところが、熱があつたりたい、そういうところは。

○委員（古嶋津義君） 熱があるなら言われることやけん、言われんちゅうのはな。

○委員長（野崎伸也君） きょうの話では、前々からですね、用事が入とった部分だったもんだけん、この間のときに、次の議運がこうて決められたときに、俺は来られんなあというように思いはあつたんだというのは、とりあえず言われたんですけど、その理由は、ちょっと聞

けなかつたもんですから、何でですかというのを、中身はですね。

○委員（古嶋津義君） それは、事務局のほうからですね、私のほうに、岩崎君だったかな、電話のありまして、きょう議運をしたいということで、自民党さんな連絡してもらってよかですかと、連絡したばってん、確かに、成松君は、俺はその日はちょっと来れんとたいなと言うた。そぎゃんところでとめておきましたので。（「理由を言えばよかつたいな」と呼ぶ者あり）

○委員長（野崎伸也君） 非常にですね、政治倫理のこともですね、議運の中の議会改革の中で、今後話もするわけなんですけれども、そういったところの中でもですね、入ってくるのかなあというふうに思うわけなんですよね。

今亀田委員からそういった御意見、御提言というのがあったということで、そちらについてもですね、皆さんにちょっと会派の中でもですね、こぎゃんことが、今ありよるという話はしてください。もしかすれば、この中で、また協議ばですね、政治倫理とか、そこら辺のところて協議ばしていく項目になるかもしれんということで、真剣にですね、議論いただければと、御検討いただければというふうに思います。よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）

それでは、ほかにございますせんか。

○委員（古嶋津義君） 1つだけ、ちょっとおつなぎをしておきますが、実は、ずっと先日からですね、熊本市議会の元議長さん、津田さんという方ですが、この方が、今九州港湾議連の会長さんだそうなんです。それで今、八代も港がありますし、特に、うちは北海と台湾の基隆と交流があるということで、そういうことで、今度8月にですね、玉名とか長洲とか、全部寄っていただいて会合をしたいと、議連を立ち上げたいということでございました。それは、話は賜っておきますが、言うときですが、うちは

8月は選挙だけ、参加は無理だろうなということ
は申し上げておきました。

うちは、北海は行くばってん、今、政務活動
費では、うちは行かれんごととなつとるけんて、
それは申し上げておきました。

ただ、そういう交流の中で、港の大事さだけ
んちゅうことで言われました。

○委員長（野崎伸也君） 議連ばつくり上げた
いとかいう話が――。

○委員（古嶋津義君） 今、政令市ばかりで
つくってありますから。（発言する者あり）

○委員長（野崎伸也君） わかりました。あり
がとうございました、情報提供を。

そういったこともあるということですので、
ただ、言われたように、8月が微妙なところで
すもんね、やっぱり。

ほかにありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（野崎伸也君） なければ、議会運営
委員会を終了いたします。

（午後0時00分 閉会）

八代市議会委員会条例第30条第1項の規定に
より署名する。

平成29年2月2日

議会運営委員会

委員長